JUNE 2016, №2

日本創造学会
JCSNEWSLETTER

第38回日本創造学会研究大会in沖縄

大会テーマ

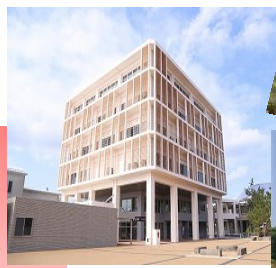
「沖縄の地域再生・活性化と創造力の展開」

-沖縄・創造ガジマル大会-

開催日程:2016年11月5日-6日

於:名桜大学（沖縄県名護市）

比嘉佑典　大会実行委員長
学術博士
日本創造学会名誉学会長
東洋大学名誉教授



名桜大学学生会館
サクラウム

北部生涯学習推進センター

「地方消滅」の風の吹く中、政府の「地方創生」の掛け声が鳴り響いています。こんな時代だからこそ、一地方「沖縄」に焦点を当て創造学会の創造力を結集して、地域に再生の嵐を呼び起こしましょう。地域活性化に奮闘している地元学生集団も参加します。皆さまの応援と激励を！沖縄発・創造力の光をアジアの隅々にまで照らしましょう。

◆基調講演◆ １１月５日（土）13：50～14：50（予定）

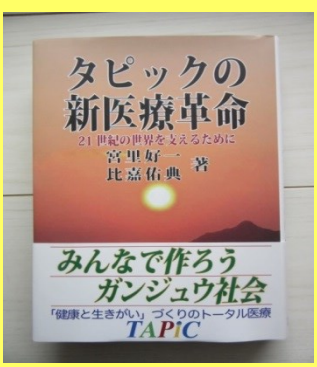
「健康と生きがいのあるコミュニティーづくり
－トータル医療の立場から－」

講演者：宮里好一

医学博士・医療法人タピックグループ代表
第38回日本創造学会研究大会副実行委員長　日本創造学会会員

宮里氏は、医療法人タピックグループを率いた25年、沖縄リハビリテーションセンター病院を中核に医療、介護、健康、スポーツ、カルチャー、リゾートホテル等を総合した、21世紀のトータル医療を目指すユニークで画期的な取り組みについて語ります。（比嘉佑典）

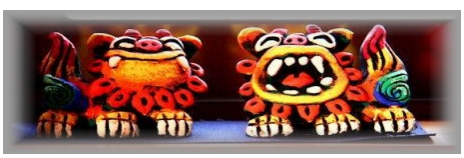
～講演者プロフィール～
岡山大学医学部卒、琉球大学医学部講師、総医局長、宮里病院開院、沖縄リハビリテーションセンター病院開院、沖縄ウェルネスリゾート・ユインチホテル南城オープン
兼務職
名桜大学経営審議委員、沖縄県地域医療構想検討会議委員、日本リハビリテーション病院・施設協会理事、ユネスコ沖縄常任理事
（著書）
『痴呆(ちほう)の基礎知識』(単著)『こころの臨床―21世紀の精神科医像』(共著)『誘発電位の基礎知識と臨床』(共著)『病院心理臨床』(共著)宮里好一『タピックの新医療革命』(共著)、その他



第38回研究大会スケジュール（予定）

1日目　11月5日（土）

時間	プログラム
12:30～	受付開始
13:00～13:40	合同役員会　於:学生会館6階ホール
13:50～14:50	基調講演　宮里好一氏 「健康と生きがいのあるコミュニティーづくり ―トータル医療の立場から―」 於:学生会館:サクラウム　司会:櫻井敬三理事長
15:00～17:00	一般研究発表 於:名桜大学北部生涯学習推進センター
17:00～17:50	総会と表彰式 於:名桜大学北部生涯学習推進センター研修室
18:00～20:00	懇親会　於:学生会館6階ホール



2日目　11月6日（日）

時間	プログラム
8:30～	受付開始　於:学生会館:サクラウム
9:00～12:00	名桜大学学生グループによる地域おこしと活性化の活動―学生のアクティブラーニングによるアクションリサーチ―　プレゼンテーション 総合司会　比嘉佑典(名誉学会長) 専門家からのアドバイス アドバイザー: 國藤進、高橋誠、澁谷貞子、樋口健夫、山浦晴男
12:00～12:50	休憩　昼食
13:00～15:00	特別講座　於:桜大学学生会館3階大講義室 創造性開発からみた新たな地域おこしへの提言　司会　澁谷貞子副理事長 講師:國藤進、山浦晴男、樋口健夫
15:30～	名桜大学発表学生グループと参加者および招待客との地域交流懇親会 於:学生会館6階スカイホール
17:10	閉会

※スケジュールは都合により変更になる場合もございます。

11月6日（日）　９：００～１２：００

名桜大学学生グループによる
地域おこしと活性化の活動プレゼンテーション

総合司会:比嘉佑典

1　新入生のフィールドワークによる地域交流学習(遠矢英憲・教養教育)
2　地域に展開するヘルスサポート活動（高瀬幸一指導グループ）
3　ゆんたく朝市健康増進活動（永田美和子指導グループ）
4　食育を通した地域の健康生活活動（前川美紀子指導グループ）

専門家からのアドバイス
國藤　進(KJ法の立場から)　**高橋　誠**(創造的問題解決の立場から)　**樋口健夫**(アイデアマラソンの立場から)
澁谷貞子(看護教育実践の立場から)　**山浦晴男**(寄りあいワークショップの立場から)

１１月６日　13:00～　特別講座

創造性開発からみた新たな地域おこしと活性化への提言

司会　**澁谷貞子**(日本医療科学大学)

●KJ法によるミニ移動大学の地域おこしの実例から
　國藤　進(北陸先端科学技術大学院大学名誉教授・客員教授)
●地域再生と寄りあいワークショップの実践から
　山浦晴男(情報工房代表・千葉大学大学院看護学研究科特命教授)
●アイデアマラソンにおける人材開発と地域づくり
　樋口健夫(アイデアマラソン研究所代表・博士)

◆-◆-◆- 研究大会要項 -◆-◆-◆

参加方法　：　参加申込書フォームは学会HPからダウンロード、又は事務局にメールでご請求下さい。
発表申込　：　参加申込書を記入の際に発表申込欄にご記入ください。発表要項をお送りします。
日　程　　：　2016年11月5日(土)～6日(日)
会　場　　：　名桜大学　北部生涯学習推進センター、学生会館サクラウム
（所在地:沖縄県名護市字為又1220-146)※那覇空港からバス利用で1時間45分程度
内　容　　：　講演会・研究発表・懇親会・ディスカッション等
発表申込締切 ： 8月末日　　研究発表論文の提出締切 ： 9月10日
参加申込締切 ： 9月末日(1次締切)

〈発表論文掲載料〉
①原稿（A4, 1680字)×4枚：2000円
②1枚追加ごとに1000円

※論文の査読は特にありませんが、論文執筆要綱に従った形式で投稿して下さい。事務局への訂正の依頼等は受け付けられませんので、ご了承ください。

〈大会参加費〉

	正会員	学生会員	非会員
事前払込み／	3000円	2500円	4000円
当日払い ／	4000円	3000円	5000円

懇親会費(希望者のみ、会費3000円程度)

【会場までの交通のご案内】

各地から沖縄へ

沖縄までの航空券は個人での手配・予約をお願い致します。
航空券の購入は2ヶ月前から、一部割引チケットは75日前より購入可能です。
《リーズナブルに沖縄へ》
○航空会社の先得割/早割/旅割等の割引航空券の購入（購入時期・方法は各航空会社にご確認下さい）
○LCC(ローコストキャリア)の利用　(スカイマーク、ジェットスター、バニラエアー、ピーチアビエーション等)
※LCCは格安ですが羽田発・成田発、乗り場まで遠い、変更や遅刻は払戻しがない、荷物は別料金等各種制約がありますので、よくご確認の上ご購入ください。
○ツアー会社の航空券・レンタカー・宿泊の格安セットプランを利用する(ツアー会社にご確認下さい)

那覇空港から名護バスターミナルまで
○高速バス利用：1時間に2回発車(高速バス111番)、所要時間:1時間45分　運賃:片道2190円
○レンタカー利用：沖縄自動車道利用で所要時間１時間30分
レンタカーは個人で予約をお願いします。沖縄での移動は車が便利です。
（料金例：コンパクトカー(マーチ・デミーオ5人乗り)1泊2日5,300円程度より、レンタカー会社によって料金は異なります)

名護バスターミナルより名桜大学まで(高速バスをご利用の方)
○タクシーにて約10分(約1,000円)

【宿泊施設のご案内】

○北部生涯学習推進センター（名桜大学キャンパス内）　※この施設のみ参加申込書による申込です
4名1室(内部で2部屋に別れる)1名1泊4,000円(素泊まり)
6部屋24名まで収容可能(先着順受付のため、利用希望者は早めにお申込下さい)
※レンタカーを借りない方はキャンパス内にある、この施設利用が便利です。

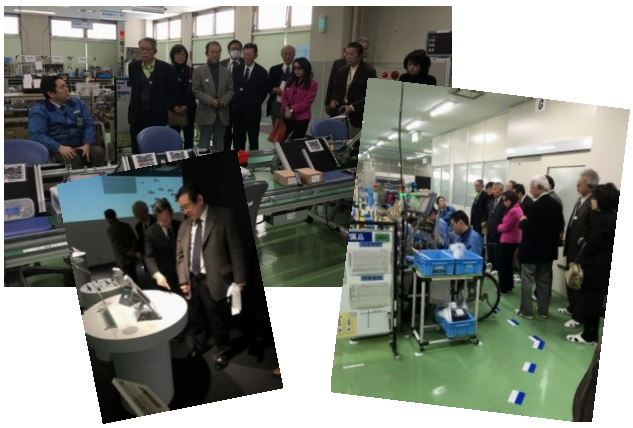
以下のホテルは個人で予約をお願い致します。表示料金は目安です。料金詳細はホテルにご確認下さい。
○スーパーホテル沖縄・名護　(名桜大学に一番近いホテル)1泊6,000円程度より～
住所：沖縄県名護市宮里1018番地　℡:0980-50-9000
URL:http://www.superhotel.co.jp/s_hotels/nago/nago.html

○ホテルゆがふいんおきなわ(バスターミナルまで徒歩10分、名桜大学にも近い)1泊6500円程度～
沖縄県名護市宮里453-1　℡:0980-53-0031
URL:　http://www.yugaf.com/

○ホテルルートイン名護　1泊7,500円程度～
住所:沖縄県名護市東江5-11-3　℡0980-54-8511
URL:　http://www.route-inn.co.jp/search/hotel/index_hotel_id_86

*～*オムロン京都太陽㈱見学会報告*～*

監事　澤泉重一



昨年の第37回日本創造学会研究大会において、オムロン株式会社元会長立石信雄氏から基調講演「輝く企業のCSRと創造性」をいただきました。このとき紹介のあったオムロン京都太陽㈱は、障がいを持たれた方々が主体となって電気機械器具を製造している会社であり、障がい者の働く場づくりが創造的に構築されています。本学会員とその関係者による同社の見学会は3月11日に催行されました。

京都駅に集合した総員16名は、まず徒歩数分の地にあるオムロン本社展示室で同社創立の歴史と製品構成を学び、その後、車で半時間ほどの上鳥羽にある目的地へと向かいました。

オムロン京都太陽の職場には、障がい者各人のハンディを超越するための各々に合わせた創造的仕組みが見事に構築されており、明るく自信に満ちあふれた作業者の様子が見てとれました。ここには、近年脚光を浴びているダイバーシティ環境にあるインクルーシブ・デザインが創立以来の実績として機能していました。オムロン太陽は、オムロンの創始者立石一真氏が、事業や経営を通じて社会に貢献するという理念のもとに、中村裕医学博士が提唱される障がい者自立への"No Charity but a Chance!"を実現したものであり、その始まりは1965年に遡ることができます。CSR(Corporate Social Responsibility)という言葉が流布されるはるか先を行く先見性にとんだものであり、今やインドネシアなど海外においてもその活動が展開されています。

オムロン京都太陽は、天皇皇后両陛下もご視察にいらした存在意義の深い会社であり、見学者は非常に多いと聞きました。働きの場についての説明と質疑応答は非常に丁重で、対応は初々しく、感心させられることの多い見学会となりました。

日本創造学会としては、このような見学会を通して企業への研究課題の創案や企業との共同研究の機会が生まれることを期待しています。また、本学会員は勤務の関係上平日での参加は困難な方が多いこともあり、本見学会が好評であったことを考慮して、第二回の見学会を企画することも検討しています。

第１回「女性起業チャレンジ制度」　200万円を５人に無償提供！

理事　高橋　誠

本学会が後援している「女性起業チャレンジ制度」の第1回授賞式が昨年11月23日に行われました。この制度は、起業を希望する女性を募集し、選考の結果、支援者を決定し、200万円を最大5名に無償で支給する制度です。実施は一般社団法人日本起業アイディア実現プロジェクトで、私が理事長をしています。

本学会からは、評議員に國藤進、櫻井敬三、澁谷貞子、徐方啓、前野隆司の各氏にご就任いただいています。第１回は約１００名の応募者から、企画書・プレゼン審査を経て、７氏が選ばれました。井上智子、神林浩子、小島希世子、関谷里美、畠山優子の５氏がグランプリで副賞200万円、橋本久美子、町井恵理の２氏が特別賞で副賞５０万円が授与されました。

第２回目は昨年11月に開始し、今年の６月に20名のプレゼンを受け、６月中に最終決定です。

第３回目も今年中には募集を開始する予定です。応募資格は、20歳以上で、起業を目指している女性です。既に起業をしていても、新しいアイディアで事業を拡大しようとしている女性ならかまいません。学生、主婦、ビジネスパーソン等、職種を問いません。女性の方で起業に挑戦らされる方はぜひとも応募いただきたいと思います。皆様のお近くに起業を目指す方がいらっしゃったら、ぜひ応募を勧めてください。（写真は第1回授賞式で受賞者の皆さんと）

第4回国際イノベーションとアントプレナーシップ会議に参加して

副会長 徐方啓

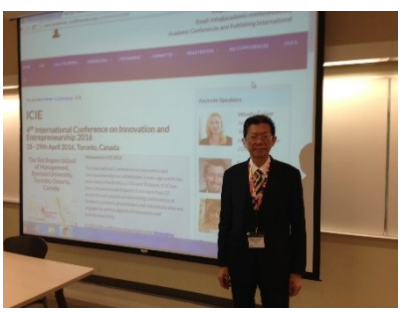
近年、イノベーション関連の国際会議は増えています。特に欧米ではこのような動きが活発になっています。より多くの情報を入手し、学術交流の輪を広げるために、私は4月28日から29日にかけてカナダのトロント市で行われた「The 4th International Conference on Innovation and Entrepreneurship」に参加しました。

同会議は本部をイギリスに置くACPI（Academic Conference and Publishing International Limited）が主催し、毎年異なる国で開催されます。今年のホスト役はカナダのライアソン（Ryerson）大学マネジメントスクールです。

同会議は、マネジメントスクールのKenneth A. Grant教授が司会を執り、ライアソン大学の副学長の挨拶からスタートし、同じマネジメントスクールの教授が基調講演を行いました。晩さん会は、トロントアートと公文書クラブで行われました。同会議には34ヶ国・地域から95名の学者と実務者が集まり、ライアソン大学の学生を含め、約130名が参加し、50本の論文（うち、論文35本、院生論文12本、その他3本）と9本のポスターが発表されました。私も「Product Innovation Versus Business Model Innovation: The Case of the Walkman and the iPod」を発表しました。

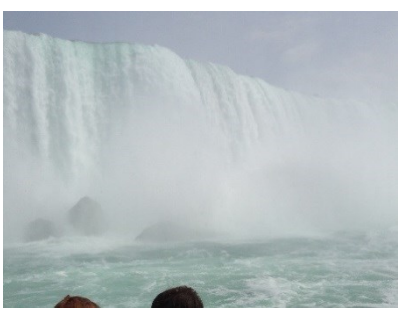
閉会の挨拶はマネジメントスクールの学長が行いました。その後、ライアソン大学のインキュベーション施設であるDigital Media Zone Incubatorを見学しました。

私にとって、トロントに行くもう1つの目的は、ミン・バサデュー（Min Basadur）マックマスター大学名誉教授を訪れることでした。5月1日午前、彼は自ら車を運転してホテルまで迎えに来て、自宅兼事務所まで連れていってくれました。バサデュー先生は、もともと技術者で、P&Gで開発・人事・教育に携わっていましたが、隣の町バッファロー（アメリカ創造教育財団の本拠地）で行われたCPSIに参加した後、マックマスタービジネススクールに転職し、創造性開発のコースを教える傍ら、創造性開発をメインとするコンサルテイング会社を経営しています。カナダにおける創造性研究の第一人者です。定年後、もっぱら会社経営を続けており、年間15回のセミナーを主催し、自ら開発した手法「Basadur Creative Problem Solving Profile(CPSP)を使って多くのビジネスマンを訓練しています。



会場にて

バサデュー先生と一緒に



迫力を感じるナイアガラの滝

会員著作紹介

『偉大な発明に学ぶアイデアのつくり方　思考展 開ワークショップ 』

三原康司著　黒須誠司監修　日経BP社　1620円（税込）

ポスト・イット、蓄音機、蒸気機関車、マッキントッシュなど、偉大な発明は、どのような思考法から生まれたのか？

世の中を変えた画期的なアイデアから、「考える仕事」の基本を学ぶ。「3つの質問」による自問自答トレーニング。

本書では、新しいアイデアを閃かせる「思考展開法」を解説します。そのプログラムを自分の思考回路に組み込むことができれば、新商品企画、新サービス企画、新ビジネスモデル企画、問題解決、事業戦略、などなど多くのことに活用することができます。

前半では、天才的な発明家による輝かしい成果を紹介しながら、「閃き」の核心を解説し、後半では、天才発明家のような閃きを手に入れるための思考展開法を紹介します。

日本創造学会西日本支部第1回研究発表会を開催しました

支部長　北門　達男

去る6月4日の午後、日本創造学会西日本支部第1回研究発表会が近畿大学経営学部で開催されました。

まず、徐方啓副会長の司会で特別講演会が行われました。講師の上田宏会員は「創造性開発学習と自撮り棒の発明・流行」をテーマに、70分の講演と10分の質疑応答を行いました。本学会関係者および近畿大学の教員と学生を併せて、約90名が聴講しました。引き続き、会場を変え、研究発表会が開催されました。冒頭に、東京から駆けつけた櫻井敬三理事長が挨拶をされ、支部会活動の意義と激励の言葉をいただきました。

その後、8件の研究発表が行われました。内訳は日本語の発表7件、英語の発表1件でした。発表者の構成は、正会員5名、学生会員2名、海外会員1名でした。また、参加のみの会員は4名でした。

最後は懇親会で、國藤進評議員長からの差し入れによるJAISTと石川県の宮本酒造店が共同開発した「純米吟醸先端」で乾杯し、地酒やお好み焼きなど大阪の名物で盛り上がりました。参加者からは今回の研究発表会が大成功だと太鼓判を捺していただき、支部長としてはほっとしました。参加者の皆様、ありがとうございました。

上田　宏講師

特別講演会の風景

櫻井理事長

北門支部長

川路会員の発表

于会員の発表

岩井会員の発表

北門会員の発表

朴会員の発表

徐会員の発表

國藤会員の発表

KICSS2016開催のご案内

The Eleventh 2016 International Conference on Knowledge, Information and Creativity Support Systems (The KICSS 2016)

昨年度、日本創造学会正会員10名が参加した国際会議KICSSは今年、インドネシアの世界遺産の街ジョグジャカルタで開催されます。

IEEEからプロシーディングも出ます。論文投稿締切は7月20日ですので、奮って投稿してください。詳細は下記のアドレスでご確認ください。

http://www.kicss.org/home.html　※国際会議の前に、日系企業の視察訪問も企画しています

▲▼▲第42回クリエイティブサロン（2016年 3月19日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：「千葉工大の未来ロボット研究・教育の秘密」

講師：富山健　（千葉工業大学未来ロボット技術研究センター）

我々はロボットとは、感じて・考えて・動くもの、と定義しているが、まずその起源と歴史を紹介した。遠くギリシャ時代のホメロスの叙事詩にも、人間の持つロボット（のようなもの）に対する強い憧れが記述されている。日本におけるロボットに対する特異な親和性の背景はからくり人形などにあることは周知であるが、その起源は陰陽師の使役した式神にあることを指摘した。

次に、千葉工大未来ロボティクス学科における教育の特徴を挙げた。例えば、1年から3年までのロボット設計制作論では、すべて目的だけを与えそれをどうクリアするかは学生個人に任されているPBL形式で進められる。他に、SI-LAB(Social Implementation Lab.、社会実装演習)という、未来ロボティクス学科、デザイン科学科、プロジェクトマネジメント学科の3学科にまたがる学科横断型のPBLも行われている。この要は学生チームを介護の現場に行かせ、そこでのニーズにロボット技術のシーズをマッチングした製品を考えさせ、その試作からビジネスプランの作成までをやらせることである。2014年度には3組中2組がある学生ビジネスコンテストで最終10組に残り奨励賞を獲得している。

また、未来ロボット技術研究センター（fuRo）の存在は常に学生達を刺激し、高い技術とそれを支える研究員達の妥協のない態度は学生の良きお手本であり目標となっている。fuRoのロボットが福島原発事故現場に投入されたのも事故後すぐ現場近くに赴き、情報収集と我々のロボットの周知を粘り強く行ったこと、その情報によって時期を失せずロボットの改良を行えた（カメラレンズの高湿度対策など）こと、などが要因となっている。

このように、研究における本当の現場に求められる真剣なニーズをキャッチする態度と、学生達が自分から動くことをデフォルトとする教育とが千葉工大におけるロボット研究・教育の秘密である。

（記事: 富山健）

第2部ワークショップ：「未来価値創造のための『社内ドリプラ』」

講師：篠田法正（（社）最幸経営研究所代表理事・中小企業診断士）

「社内ドリプラ」とは、「会社内で行うドリームプランプレゼンテーション」の略称です。職場の数人単位で構成されるチームの代表者が、「理想の会社」で実現したい夢の事業プランについて10分間のプレゼンテーションを行います。ただし、夢を説明するのではなく、夢が実現した世界を映像と音楽の入ったストーリーで、体験させるプレゼンテーションです。プレゼンまでの準備期間は数か月。チームのメンバーは、この期間中、発表者をやる気にさせ、夢をふくらませ、価値を明確にし、どうしたら共感してもらえるプレゼンになるかを一緒に考え、悩みながら応援します。その過程で、参加者は自分たちの仕事の意味や使命に気づき、自立型姿勢、相互支援等を実践的に身に付けていきます。社内ドリプラは、すでに大手企業を含め、種々の業種の企業、病院等で実施されています。

ワークショップでは、夢の事業を想定し、その事業価値を最大化するための創造性を高める手法として、ドリームキャラクター法をご紹介し、体験してもらいました。自分の分身としての理想のキャラクターをデザインし、そのキャラクターに質問することで、客観的に課題を捉え、潜在意識からのアイデア発想を誘います。デザイン思考、芸術思考に基づくワークです。ドリームキャラクター　ワークシートの記載内容は、

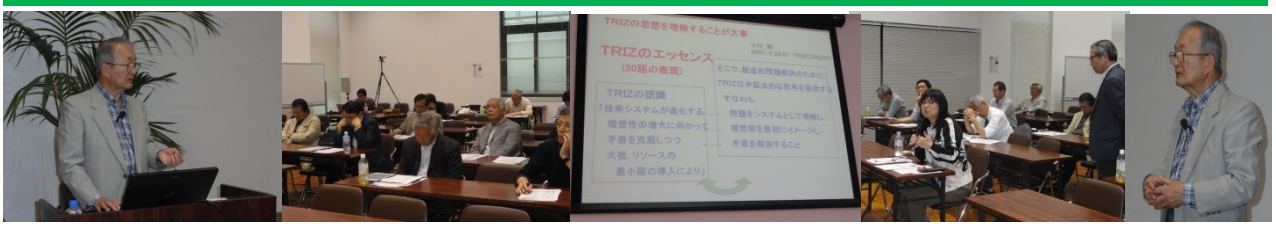
・キャラクターのイラスト（出来るだけ詳細に、カラフルに）　ーキャラクターのつぶやき記入。
　「口ぐせ」、「夢がかなった時になんて言う」、「こんな性格です」
・未来：「こんな事したい」（将来の夢など）
・現在：「こんな事している人です」（仕事や趣味など）
・過去：「こんな事してきました」（学業や仕事など）
・名前、身長、出身高校、卒業大学、住んでいる所（理由も）、誕生日、生まれた所、年収。

（記事: 篠田法正）

▲▼▲第43回クリエイティブサロン（2016年 1月９日）開催報告▲▼▲

第１部講演会：「創造的な問題解決のための一般的な方法論（CrePS）
－新しいパラダイム：6箱方式－　－簡潔な一貫プロセス：　USIT」

講師：中川徹　（大阪学院大学名誉教授、クレプス研究所代表）



5月14日のクリサロの第一部の講演では、表記のように非常に包括的な話をしましたが、話の内容は明確なものです。最初のスライドは、「問題提起と結論」でした。
問題解決／課題達成を創造的に行うための方法が、永年に渡って研究され、多数の多様なものが開発・実践されてきました。しかし、現在それらはバラバラで、例えば、「高等学校で一学期間の授業をする」標準的な内容は作れていません。「創造的な問題解決の方法の全体をまとめることができないのか？それをまとめる骨格になる方式（パラダイム）がないのか？統合した一般的な方法論はどんなものか？それを簡潔に実践するプロセスはどんなものか？」というのが、問題提起です。
私の結論は、「まとめることは可能だ。「6箱方式」を骨格にすると、創造的な問題解決の一般的な方法論ができる（CrePS(クレプス)と命名）。簡潔に実践する汎用のプロセスは、USIT(ユーシット)として開発済みである」というものです。
私はまず「6箱方式」を説明し、それを導いた歴史的展開を話しました。従来の科学技術一般と創造性技法が土台にしている抽象化の「4箱方式」の問題点を話し、TRIZとUSITの研究を経て、CrePSができてきたこと。「6箱方式」は言われてみれば「当たり前」であること。1999年からUSITを導入・実践しており、そのマニュアルと適用事例集を説明しました。
活発に40分の討論がありました。その中心は、問題を明確にする最初の段階が問題状況と分野に依存しており、特定の技術課題ではない場合の難しさ、非技術の分野への適用の可能性／やり方などでした。TRIZをビジネス分野にも適用している人たちはいろいろいます。最近、私は『下流老人』（藤田孝典著）の論理の「見える化」をし、「自由vs. 愛」が「人類文化の主要矛盾」だと認識したことを、CrePSの適用例として話しました。
詳しくは、『TRIZホームページ』をご覧ください。　（記事: 中川徹）

第2部講演会：「発想の転換、単純な手法」

講師：大西瞳氏（㈱マインドスケープ　チーフプロデューサー）

小さい頃、開発が進む郊外の空地で、花を見つけては母親に名前を教えてもらい、家に飾っていました。その頃は、様々な虫や野良犬や野良猫が至る所にいて、日が暮れるまでそれらと戯れる日々でした。年とともに空地も減り、動物や虫も少なくなり姿を消して行きました。その後、縁あって、高知県と言う自然豊かな地域で大学時代を過ごし、幼少期のように動植物と戯れる日々を送ることが再び出来たことが、わたしのその後の人生に大きく影響を及ぼしています。
植物は、人間の生活にとって不可欠なものです。私たちの身の周りを見渡せば、植物由来のものがほとんど。食べ物、衣類、薬、建築、家具、紙、筆記用具等々、植物と無関係のものを探す方が難しいほどです。しかし私たちは、普段そのことをあまり意識せずに生活しています。そこで私は、出来るだけ多くの人が植物をもっと意識し、興味を持ってもらえるよう、現在の仕事をしています。植物は単純で自分勝手で、あざとく、強かな生き物です。でも自分で移動できないという弱点があります。なので人間がうまく手助けをして、かれらの生活域をつくり、守ってあげます。そんな中で、我々が行った仕事を例に紹介しました。
『芝生のベンチPeddy』 ―芝生で寝転がったり座ったりと気持ち良さそうな写真をよく目にしますが、実際は、何かが落ちているのではと座るのを戸惑ったり、地べたに座ることに抵抗を感じたり、高年齢化により、足腰を痛めて座れないなどという事が多くあります。そこで、座れる高さに芝生を配置する設計の試みを行ってきました。そしてそれが、固定ではなく、移動可能なものとして、Peddyが生まれました。Peddyは、生き物です。植物ではありますが、ペットのように世話をすることを必須としています。水をやったり、カットをしたりして、育てて行くファニチャーです。Peddyは1つの例ですが、発想を転換し植物の性質をより知ることで、もっと柔軟に自分の生活に植物を取り入れることができます。そして、彼らと共存することで、我々人間が得るものは計り知れないことをもっと多くの方々に知ってもらうべく、仕事を続けて行こうと思っています。　（記事: 大西瞳）

第44回クリエイティブサロン開催のお知らせ

研究会担当理事　田村新吾

日本創造学会主催のクリエイティブサロンは会員・非会員を問わず、どなたでも参加できる開かれた研究会となっています。多くの皆様の参加をお待ちしております。

開催日：2016年7月9日（土）13：00～18：00　会場：日本経済大学大学院1階246ホール

第1部
講演会講師：熊野正樹氏

九州大学産学連携本部准教授
博士（商学）

第2部
講演会＆WS講師：伊東健氏

（社）日本アスペン研究所
常務理事
北陸先端科学技術大学院大学
産学官連携客員教授

講演テーマ：

学生ベンチャーによる地方創生

我が国の経済を活性化させるうえで、開業、中でもベンチャー企業の開業を促進することは重要な課題です。

現在、起業家を志す人々の裾野を広げることを目的として、多くの大学で起業家教育が行われています。しかし、我が国の開業率は依然低調な水準で推移しており、必ずしも成果が上がっているとはいえない状態といえます。

そこで、本講演では、起業家教育の最適なあり方を探るため、崇城大学起業家育成プログラムの事例を通して、ベンチャー企業創出において起業家教育が果たすべき役割とは何か、起業家教育がベンチャー企業を創出するにはどういった内容が必要なのかをお話します。

講演＆WSテーマ：

シリコンバレーの歴史に学ぶイノベーション

シリコンバレーは世 界のIT産業における中心的な場所であり、世界的なIT企業がひしめく一大産業地を形成している。そのシリコンバレーの生い立ちと発展の歴史を振り返る。

次に半導体産業の中心地だった1960年代からソフ トウェア産業も巻き込んだ総合IT産業地へと飛躍した1970年代後半に、その動きの中心となったXerox PARC（Palo Alto Research Center）に 身を置いた経験を踏まえてシリコンバレーがいかにイノベーションを生みやすい環境にあるのか、その特徴について述べる。その後現状と今後の展望について触れる。講演後、時間があれば簡単なワークショップとしてシリコンバレーと日本におけるイノベーションのSWOT分析を試みていただく予定。

《スケジュール》

12：30	開場
13：00-14：00	第1部講演会
14：00-14：30	質疑応答
14：30-15：00	休憩・開場整備
15：00-17：30	第2部講演・ワークショップ（質疑応答含む）
17：30-17：45	片付け
18：00～	別会場にて懇親会

会　場：　日本経済大学大学院1階246ホール
所在地：〒150-0031　東京都渋谷区桜丘町25-17
JR渋谷駅より徒歩3分

参加費：　会員/無料　非会員/参加費1000円
※懇親会（希望者）は4,000円程度の実費

※参加希望の方は、学会ホームページより、メールでお申し込み下さい。
［氏名/所属/会員or非会員/懇親会参加の有無］

経路「渋谷駅南改札西口⇒歩道橋対面へ⇒国道246号線沿」

追悼：多湖輝先生、ありがとうございました

理事：高橋誠

韓国・2005年〈第6回 WORLD KNOWLEDGE FORUM〉
高橋会長、多湖名誉会長、國藤理事長（当時）

東京未来大学名誉学長、千葉大学名誉教授の多湖輝先生が、3月6日に90才でご逝去されました。先生は東大の心理学科出身で、東工大助手を経て千葉大教授、東京未来大学学長など学者の道を歩まれました。先生を有名にしたのは、1966年に出された思考パズルの本『頭の体操』です。このシリーズは約40年間に23巻の続編が出版されました。ある時、「先生が出された本の総発行部数は？」とお聞きしたら、「何部と思う」と問い返されました。「3000万部ですか」と答えると、「いや6000万部。子供向けもあるからね」が返事でした。そして「高橋さんともう少し前に知り合っていたら、いくらでも御馳走したのにね」と、にやりと笑われました。

先生との思い出は、数多くあります。1988年にオーストラリアで開催された「国際心理学会」に、私たち夫婦は多湖夫妻と御一緒させていただきました。これが私が「羊グッズコレクター」になるキッカケとなりました。

創造学会では、私が理事長だった2002年から2004年に会長をお願いしました。2002年には上海で中国創造学会と本学会が共催の「国際創造学シンポジウム」に、2005年は韓国ソウルで行われた「世界知識会議」もご一緒し、大変楽しい日々を過ごさせていただきました。また先生の軽井沢別荘にお伺いしたことなど、思い出は尽きません。

マジックなども楽しみ、数百冊のご著書を出され、精力的に活動された先生ともうお会いできない。本当に寂しい限りです。せめて先生の意思を次いで「日本をもっと創造的にする」ことをお約束します。

多湖先生、長い間大変お世話になりました。どうぞ安らかにお休みください。

✦ ✦✦新入会員紹介✦✦✦

正会員・海外会員・学生会員　入会者（入会順）

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
前川正実	正会員	北陸先端科学技術大学院大学	石川県	デザイン・イノベーション
國友尚	学生会員	慶應義塾大学大学院	東京都	メディア・システムエンジニアリング
朴 在 鎬	海外会員	嶺南大学	韓国	創造性・イノベーション
坂口和敏	学生会員	慶應義塾大学大学院	東京都	サービスデザイン・イノベーションデザイン
竹内恵子	正会員	横浜市立篠原西小学校	神奈川県	教育学
角谷詩織	正会員	上越教育大学	新潟県	発達心理学・教育心理学
岩井貴美	学生会員	近畿大学大学院	大阪府	インターンシップ教育・キャリア教育
坂本優子	学生会員	慶應義塾大学大学院	神奈川県	臨床看護・医療安全

2016年度会員総会について

2016年度会員総会は、11月5日17時00分より研究大会会場の名桜大学（沖縄県名護市）で開催されます。参加できない場合は、学会より送付される往復葉書の返信にて、期日までに委任状をご提出下さい。

事務局メッセージ

今大会の副実行委員長であり基調講演講師の宮里好一氏が率いる医療法人「タピック」の命名には、氏の理念が込められています。

Total「総合性」心身共に社会性を備えた総合医療、
Academic「専門性」未踏な分野を研究する専門家集団、
Popular「患者の立場」 病む心への援助、
International「国際性」世界に視野を向ける、
Centurial「21世紀にふさわしい」新世紀の医療の担い手

宮里氏の、地域社会をも巻き込む包括的な総合医療の実践と考え方はまさに創造的です。皆様の参加をお待ちしております。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2016年6月発行（№2）
日本創造学会事務局
発行人 ：櫻井敬三
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高
4－7－6－816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/